

ビオトープとは？

ビオトープ(BIO - TOPE)は、ドイツ語で生き物を意味する「ビオ」と場所を意味する「トープ」を組み合わせた造語で、「生き物の生息・生育空間」を指します。

現在環境破壊が止まなく進む都市部を中心に野生生物が生息できる場所(ビオトープ)の確保が必要だとされています。

この造語を作ったドイツでは、今ある自然を残す努力は当然のこととして、(これはリサイクルの徹底化で実践されています)さらに失われた場所を土地の自然治癒力をを利用して復元する試みがなされています。

近年日本でも実践されるようになっていますが、一部はき違えた概念で、単に草木植た水場を用意しただけの公園を作ることがビオトープだと思っている人達がいるのも事実です。

例として、元々が十分な里山としてのビオトープが完成している場所を整地して公園を作りビオトープを作る等という本末転倒なこともあります。

この例をどうして？と思う方に詳しく説明します。

ビオトープとは、自然の状態で多様な動植物が生息する環境の最小単位」を意味します。

これは地球上の生態系(エコシステム)を保続して行く上で欠くことの出来ない構成ユニット単位です。

ビオトープの概念は、地理的区分の最小単位を追求する過程に生まれたもので、最初は地形・地質的な内容を主としたもの「ジオトープ」が考えられていましたが、次第に地形・地質の条件をも反映する要素として、その上に生じた生物群集が着目されるようになりました。

最近になりビオトープの概念が特に重要視されるようになった理由としては、環境変化に対して生物群集が地形・地質的要因と比較してはるかに影響を受け易い事、人間生活との関わりがより直接的である事、などが考えられます。

ビオトープはこの様に本来は普遍的な単位であり、広大な自然地域の区分にも用いられますが、環境保全の立場からは、特に人間によって広汎に改変された地域(市街地・農耕地)に斑点状に残存する自然地域に適用される場合が多く、これらを「*3狭義のビオトープ」として捉える事が出来ます。

*2ビオトープの単位次項

